

会員各位

## 十七世紀英文学会論集論文募集

論集編集委員会（2025.12.27）

今期編集委員会メンバーによる協議および投票の結果、論集第 22 巻のタイトルを『十七世紀英文学とコミュニティ』 (*Seventeenth-Century English Literature and Community*) とすることが決定いたしました。本巻のテーマとして「コミュニティ」を選定した理由は、幅広い意味で「世界」という主題にアプローチした前号に対し、本号では「コミュニティ」という概念を手がかりとして、十七世紀英文学を取り巻く多様な人間関係・集団・結びつきのあり方を再考し、グローバルな関係性を別の視座から補完することを企図したためです。

「コミュニティ」は、家族や宗教集団、都市や国家、越境的共同体に至るまで、ミクロからマクロにわたる多様な関係性を捉えうる概念です。近年の人文学においては、包摂と排除、連帯と分断、帰属と移動といった問題系が、歴史研究・文学研究の双方であらためて注目されています。宗教的対立や内戦、商業・都市の発展、印刷文化の拡大などが進行した十七世紀は、既存の共同体が揺らぎ、新たなコミュニティが生成・再編された時代でもありました。本特集では、こうした文脈を踏まえつつ、英文学作品や作家、受容や上演、読書実践などを対象に、「コミュニティ」をめぐる多角的な論考を広く募集いたします。

近年の人文学研究を取り巻く厳しい環境のなかにあつて、研究成果を公にすることは、研究者個人のみならず、学会全体にとってもきわめて重要です。本論集が、会員の皆様の研究成果を広く発信する場となることを願っております。どうぞふるってご投稿ください。なお、論集のソフトカバー化が編集会議において話題となりましたが、今後、会員の皆様のご意見を踏まえつつ、編集委員会にて検討していく課題のひとつとしたいと考えております。

前号より、会員の皆様にあらかじめ執筆希望の有無をお知らせいただくこととなりました。円滑な編集・出版作業のため、執筆希望の有無を事前に確認させていただきます。現時点でのお考えをお知らせいただければ結構です（最終的に投稿に至らなくても差し支えありません）。**2026 年 3 月 31 日までに、各支部編集委員宛に、電子メールにて【ご所属・お名前・可能であれば仮タイトル】をご一報ください。**

投稿要領は以下のとおりです。できるだけ本巻のタイトルおよび主題と関連のあるテーマでのご投稿をお願いいたします。

**執筆希望締切日：2026 年 3 月 31 日**

**原稿提出締切日：2027 年 3 月 31 日**

**刊行予定：2027 年 8 月 30 日（予定）**

**以下の各支部編集委員宛に、【所属・氏名・（可能であれば）仮タイトル】をお知らせください。**

### 東北支部

川田 潤先生      jun@educ.fukushima-u.ac.jp

菅野 智城先生    tomoshi@coda.ocn.ne.jp

## 東京支部

富樫 剛先生      gtgshgt@gmail.com  
高根 広大先生      kodai.t.1223@gmail.com

## 関西支部

山本 真司      sya@aoyamagakuin.jp [編集責任]  
廣野 允紀先生      simoneok.5628@gmail.com

以下に「編集規定」を添えておきます。2016 年度の総会での承認を受けて、「執筆料」および文字数超過に対する「追加料金」についての項目が追加されております。詳しくは下記の編集規定をご覧ください。また、今回も次の 3 点について、会員の皆様にご理解をお願いいたします。

1. 執筆者は 5 冊ご購入のこと。
2. 執筆者以外の会員は、各人 1 冊ご購入のこと。所属大学図書館でのご購入も積極的にご検討ください。
3. 金星堂のテキストをできるだけご採用ください。

## 十七世紀英文学会論集編集規定

1. 寄稿論文は未発表のものであることを原則とする。ただし、既発表の論文でも、編集委員会において本論集に収録することが望ましいと判断されたものは、この限りではない。
2. 原稿は A4 横書きとし、長さは註を含めて日本語の場合 **16,000 字**、英語の場合 **8,000 words** 程度であること。「引用文献」(Works Cited) は字数から除く。書式は **32 字×28 行** に設定すること。なお、英語論文については、英文のネイティヴ・チェックを事前に必ず済ませていること。また投稿原稿は **WORD** のファイル形式とし、各支部編集委員宛に電子メール添付で送付するものとする。なお校正は、必要最小限の訂正しか認めないので、完全原稿で投稿のこと。
3. 図版・写真などは、著作権に関する問題がなく、またもし費用が生じる場合は執筆者が自己負担することを前提として、掲載を認める。なお希望者は、事前にその旨、所属支部の編集委員に伝えること。
4. 文献引用法その他書式の細目については、最新版 **MLA Handbook** に則るものとする。また、下記の点に留意すること。
  - (ア) 和文の場合、原則として引用文には邦訳を付ける。(邦訳のみでもよい)
  - (イ) 引用は 3 行以上にわたるときは、本文から分離する。
  - (ウ) 注は末尾にまとめる。注番号は、本文・後注ともアラビア数字とし、括弧で囲む。後注番号の次は 1 コマあける。
5. 投稿の際、編集委員宛の電子メール本文に、氏名、現在の所属ならびに連絡用の住所、電話番号、ファックス番号、電子メールアドレス、そして日本語論文の場合は英文タイトルを記載すること。
6. 論集原稿の採択および編集は、編集委員会の責任において行うものとする。
7. 執筆者は従来通り買い上げ 5 冊に加えて、執筆料 1 万円を支払うこととする。ただし、学生会員には執筆料を課さない。また、字数は超過しないことが原則だが、万一超過した場合については、追加料金を課す。